

「岩木健診」国際的な評価

弘前大学が2005年から弘前市岩木地区で行っている岩木健康増進プロジェクト健診（岩木健診）の取り組みが今年5月、日本を代表する先進的な高齢者支援策として、国連の5地域委員会の一つ「アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）」策定の報告書に盛り込まれた。約千人の岩木地区住民の長年にわたる協力が、国際的に認められる形となった。（福士和久）

弘大先進的な高齢者支援策

国連は21世紀初頭から、高齢者の健康増進など世界的な高齢化対策に取り組んでいる。中でもアジアでの高齢化は顕著で、特に問題が深刻な日本、中国、韓国の実践例が報告書に盛り込まれた。岩木健診は、ESCAPが日本国内の四つの具体的な取り組みのうちの一つとして採用した。

弘大はこれまで15年にわたり、岩木地区住民を対象に1人当たり2千〜3千項目の健康データを取ってきた。データは医薬品や健

国連委、報告書に採用

康法などの開発に生かされている。文部科学省が多額の研究費を投入する大型研究プログラム「センター・オブ・イノベーション（COI）」にも選ばれている。

弘大COIの村下公一副拠点長（教授）は「われわれがやってきたことが国際的な評価を受けてうれしい。青森の地で得たノウハウで、途上国など海外での健康づくりに貢献できるのは素晴らしいこと」と話している。